



# 学校だより



6月号

## 「聴く」ことを大切に

「子供の一言メッセージ」や「のぼり」「横断幕」「クス球」「きよもん登場」など、いろいろな演出が見られた最後の運動会。演技する子供たちと観客が一緒になって100回目を祝うことができ、思い出深いものとなりました。子供たちにかけてくださった温かい声援は、しっかりと脳裏に刻まれてものと思います。心よりお礼を申し上げます。教職員も子供たちも、当日まで、「心に残る運動会にしよう」をめあてに取り組んできました。運動会を通して、クラスの、学年の、そして平野小学校の「チーム力」が強くなったように思います。うれしい限りです。毎朝、教室から校庭に響き渡る「おはよう」の元気な声がそれを表しているようです。また、考えたことを伝え合う子供たち、昨日のできごとを話す子供……。そこには子供たちのさまざまな表情と共に言葉を交わす姿が見られます。私たちは、日常、言葉を通して互いの気持ちを交流させ、つながりを深めていることを実感します。

「聴く」ということは、話し手に心に向け、相手の思いや考えを受け取るということです。相手の気持ちを受け止める、相手を認めることだと思っています。言葉を受け取ることで、自分で考え、相手に言葉を返していく・・・こうして、人と人とのコミュニケーションが生まれるのです。つまり聴くことを抜きにして豊かなコミュニケーションは成り立たないということです。聴こうとする心は、話し手に安心感を与え、柔らかさと温かさを生み出します。相手を思いやる心が働くからです。自分が主張することばかり考える心には、そういう柔らかさは存在しないように思います。人と人とがつながる時に大切なのはこの柔らかさだと思うのです。これは、「思いやりのある子」を育てる基本だと思っています。また、学びにおいても、聴くという行為は大切です。一人だけで豊かな学びができる人はまずいません。人は、「聴く」ことによって、他者とつながり、他者の考えを受け入れたり、他者の考えと比較したりしながら、学びを深めていくのです。それが、学び合いです。子供たちには学び合いの中でも、豊かな関わり心地よさを感じてほしいと思っています。人と人とが温かく柔らかいコミュニケーションを生むためには、「聴く」ことが大切だということです。

一日の生活時間の多くが学校生活であることを考えると、私たち教職員が「聴ける人、受信できる人」でありたいと思います。そして、「聴く」ということを心がけながら「自他共に大切にできる豊かな心」を育んでいきたいと思っています。